

解剖生理学 I		看護学科		1年前期			
2単位		必修		講義	30時間		
[教員]：熊田 卓							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	看護実践に必要な基本的知識である人体の構造と機能について学ぶ。本科目では、消化器系、泌尿器系、呼吸器系および免疫系の各系統における構造と人体での位置、他の臓器とのつながり、主な器官のメカニズムと調整機能などについて理解する。						
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要な言語を用いて授業方法葉や図を探し、個々のサブノートを作成する。						
到達目標	知識・理解	看護師に必要な基礎知識を理解する。				◎	
	思考・判断・表現	コミュニケーション能力を養う。				△	
	技能	課題に対する現状や問題点などの指摘や説明ができる。				△	
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。				○	
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験(定期試験・豆テスト)	70	-	-	-	70	
	レポート	-	5	5	5	15	
	学修成果の自己評価	-	5	-	-	5	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	70	10	5	15	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学』医学書院 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学』医学書院						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	解剖生理学のための基礎知識 形からみた人体、素材からみた人体 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
2	解剖生理学のための基礎知識 素材からみた人体、機能からみた人体 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
3	栄養の消化と吸収 口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
4	栄養の消化と吸収 肝胆膵の構造と機能 内臓機能の調節 自律神経による調節 内分泌系による調節 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
5	内臓機能の調節 内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
6	呼吸と血液のはたらき 呼吸器の構造 呼吸 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
7	呼吸と血液のはたらき 血液 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
8	血液のはたらきと病態生理 (病態生理学 疾患の成り立ちと回復の促進②を使用) [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
9	体液の調節と尿の生成 腎臓 排出路 体液の調節 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
10	身体の支持と運動 骨格とはどのようなものか 骨の構造 骨格筋 体幹の骨格と筋 上肢の骨格と筋 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
11	身体の支持と運動 下肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
12	情報の受容と処理 神経系の構造と機能 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
13	情報の受容と処理 脳の高次機能 運動機能と下降伝導路 感覚機能と上行伝導路 目の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚 痛み [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
14	身体の防御と適応 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
15	生殖・発生と老化のしくみ [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
時間外での学修	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 時間外での学習質問等があれば、研究室へどうぞ。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは熊田研究室、毎週月曜日の16:00から17:00です。						

解剖生理学Ⅱ		看護学科	1年前期					
2単位		必修	講義	30時間				
[教員]：曾根 孝仁・熊田 卓								
[関連する資格・履修制限等]：特になし								
授業内容	看護実践に必要な基本的知識である人体の構造と機能について学ぶ。本科目では、循環器系、内分泌系、筋骨格系、神経系の各系統における構造と人体での位置、他の臓器とのつながり、主な器官のメカニズムと調整機能などについて理解する。							
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要なこと授業方法とばを探し、個々のサブノートを作成する。							
到達目標	知識・理解	看護師に必要な基礎知識を理解する。				◎		
	思考・判断・表現	コミュニケーション能力を養う。				△		
	技能	クラス編成（チーム）により、力を合わせることの意義を理解する。				△		
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。				○		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)		
	筆記試験(定期試験・豆テスト)	70	-	-	-	70		
	レポート	-	5	5	5	15		
	学修成果の自己評価	-	5	-	-	5		
	受講態度	-	-	-	10	10		
	合 計(点)	70	10	5	15	100		
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。							
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と人体の構造と機能[1]解剖生理学』 医学書院 『系統看護学講座 専門基礎分野 病気のなりたちと回復の促進[2]病態生理学』 医学書院							
参考書・教材	必要な資料は配布します。							
内容								
実施回	授業内容・目標							
1(熊田)	病態生理学を学ぶための基礎知識 正常と病気の状態 循環障害 細胞・組織の障害 感染症 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
2(熊田)	病態生理学を学ぶための基礎知識 腫瘍 先天異常と遺伝子異常 老化とし 死の定義 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
3(熊田)	皮膚・体温調節の仕組みと病態生理 免疫の仕組みと病態御整理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
4(熊田)	消化・吸収のしくみと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
5(熊田)	腎・泌尿器のしくみと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
6(熊田)	生殖のしくみと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
7(熊田)	脳・神経・筋肉のはたらきと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
8(熊田)	感覚器のはたらきと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
9(曾根)	体液調節の仕組みと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
10(曾根)	血液の循環とその調節 (解剖生理学 人体の構造と機能①使用) [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
11(曾根)	循環のしくみと病態生理 心臓のポンプ機能と病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
12(曾根)	循環のしくみと病態生理 血圧調節と末梢循環の仕組みと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
13(曾根)	呼吸のしくみと病態生理 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
14(曾根)	内分泌・代謝のしくみと病態生理 内分泌のしくみとその異常 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
15(曾根)	内分泌・代謝のしくみと病態生理 糖代謝・脂質代謝・尿酸代謝・カルシウム・リン代謝とその異常 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
時間外での学修	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 時間外での学習質問等があれば、研究室へどうぞ。							
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは熊田研究室、毎週月曜日の16：00から17：00です。							

人体と栄養		看護学科		1年前期					
1単位		必修		講義					
[教員]：岩崎 文江									
[関連する資格・履修制限等]：特になし									
授業内容	人間にとつての栄養の意義及び疾病治療との関連について、また、食事療法の基本及び栄養治療（栄養療法）について講義します。栄養学の基本的知識として、栄養素とその栄養価、食物の消化吸収などを学び、ライフステージ別の生理的特徴や栄養代謝の特徴を理解します。また、患者の特性に応じた栄養補給法、栄養教育法について理解を深めます。								
授業方法	講義を中心として、確認テストを取り入れて講義内容の理解を深めながら授業を進めます。								
到達目標	知識・理解	栄養素の種類と働きが理解できる 栄養素の体内代謝のメカニズムと必要量が理解できる 栄養アセスメントの意義と方法が理解できる ライフステージ別の生理的特徴や栄養代謝の特徴が理解できる 疾患別の食事療法の意義とその内容が理解できる							
	関心・意欲・態度	自己の考えをまとめ、レポートに記述できる							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)		
	筆記試験		90	-	-	-	90		
	レポート		-	-	-	10	10		
		合 計(点)	90	-	-	10	100		
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。								
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学』医学書院								
参考書・教材	必要な資料は配布します。								
内容									
実施回						授業内容・目標			
1	栄養素の種類と働き [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
2	日本人の食事摂取基準 [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
3	栄養アセスメント [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
4	運動と栄養 [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
5	人生各期における健康生活と栄養 [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
6	疾患別栄養療法①疾患別 [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
7	疾患別栄養療法②嚥下障害 [準備・課題]学習内容を復習する(4h)								
8	疾患別栄養療法③グループ討議 [準備・課題]学習内容を復習する(2h)								
時間外での学修	予習、復習に努めてください。								
受講学生へのメッセージ	講義内容のポイントを理解し、栄養への関心を深めてください。 オフィスアワー：質問・相談などあれば、時間終了後にきてください。								

病理学	看護学科		1年前期			
	1単位	必修	講義	15時間		
[教員]：佐々 敏						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	病理学とは疾病の成り立ちを理解する学問です。臨床の現場では、病気の最終診断・がんなどは病理組織診断で最終決定される。この授業では臨床病態を理解する上での基礎になる病理総論に重点をおき、正常の解剖生理から逸脱した病態を細胞・組織の側面から理解できることを目指す。					
授業方法	毎回のテーマにおける重要な病理学的用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書や豆テストなどを用いる。自分の理解力を高める目的で、独自のサブノートを作成する。					
到達目標	知識・理解	看護師に必要な病理学的用語が理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。			○	
	技能	図や表から病理に関連する内容の理解ができる。			△	
	関心・意欲・態度	独自のサブノート作成に取り組むことができる。			○	
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	5	5	-	70
	発表・レポート	-	5	5	10	20
	学習成果の自己評価	-	5	-	5	10
	合 計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学』医学書院					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	病理学で学ぶこと [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
2	細胞・組織の障害と修復 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
3	循環障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
4	炎症と免疫、移植と再生医療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
5	感染症 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
6	代謝障害、先天異常と遺伝子異常 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
7	腫瘍 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
8	老化と死 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
時間外での学修	自分が理解しやすい、独自のサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、佐々研究室へどうぞ。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。 オフィスアワーは佐々研究室、毎週火曜日の16:00から17:00です。					

病態学 I		看護学科		1年後期					
2単位		必修		講義					
[教員]：熊田 卓									
[関連する資格・履修制限等]：特になし									
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療について学ぶ。								
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業をすすめる。								
到達目標	知識・理解	消化器機能障害の病態とその診断・治療について説明できる。腎・泌尿器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。呼吸器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。血液・造血器障害の病態とその診断・治療について説明できる。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	◎		
	筆記試験	100	-	-	-	100			
	合 計(点)	100	-	-	-	100			
評価の特記事項									
テキスト	『系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[2]呼吸器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[4]血液・造血器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[5]消化器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[8]腎・泌尿器』医学書院								
参考書・教材	必要な資料は配布します。								
実施回	内容					授業内容・目標			
	1	肝疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	2	胆道系疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	3	胰疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	4	食道・胃疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	5	小腸・大腸疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	6	腎・泌尿器系機能障害と検査 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	7	腎炎・腎不全の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	8	泌尿器感染症、通過障害、神経障害等の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	9	呼吸器の構造と機能、呼吸器検査など、酸素療法とCO2ナルコーシス、呼吸不全の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	10	呼吸器疾患の検査と治療・処置 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	11	呼吸器疾患の理解 感染症 間質性肺疾患 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	12	呼吸器疾患の理解 気道疾患 肺血栓塞栓症 呼吸不全 肺腫瘍 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	13	血液の生理と造血のしくみ 検査・診断 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	14	疾患の理解 赤血球の異常 白血球の異常 出血性疾患 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
	15	造血器腫瘍 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)							
時間外での学修	予習・復習に努めること。								
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは熊田研究室、毎週月曜日の16：00から17：00です。								

病態学Ⅱ	看護学科		1年後期			
	2単位	必修	講義	30時間		
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁・鬼頭 晃						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療法について学ぶ。					
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。					
到達目標	知識・理解	脳神経系の障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 循環器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 造血器及び免疫疾患の病態とその診断・治療法について説明できる。 運動機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。				
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切な説明ができる				
	技能	図や表から病態に関連する内容の理解ができる				
	関心・意欲・態度	独自のサブノート作成に取り組むことができる				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	5	5	-	70
	レポート	-	5	5	10	20
	学習成果の自己評価	-	5	-	5	10
	合 計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『系統看護学講座 病態生理学』医学書院					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1鬼頭	脳・神経の構造と機能障害、脳の局所症状 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
2鬼頭	脳血管障害の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
3鬼頭	頭部外傷・脳腫瘍・感染症の病態と治療、運動制御の障害と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
4曾根	高血圧及び末梢血管疾患の病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの全身循環を事前に復習してくること。 (3 h)					
5曾根	心臓弁膜症の病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの心音、心雜音、脈波につき事前に復習してくること。 (3 h)					
6曾根	心筋疾患・心膜疾患、その他の病態・発症機序・治療 [課題]前2回の講義内容を含めて学習内容を復習する。 (3 h)					
7曾根	不整脈の種類・病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの心電図を事前に復習してくること。 (3 h)					
8曾根	虚血性心臓病の病態・治療 [課題]あらかじめ冠状動脈につき予習してくること。 (3 h)					
9曾根	心不全の病態と治療 [課題]あらかじめその臨床像をイメージしてくること。 (3 h)					
10佐々	血液細胞のもつ諸機能の障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
11佐々	造血機能障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
12佐々	免疫機能障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
13佐々	骨格系の運動機能とその障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
14佐々	脊椎の運動機能とその障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
15佐々	関節・筋肉の運動機能とその障害 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
時間外での学修	自分が理解しやすい、独自なサブノートの作成に努めてください。					
受講学生へのメッセージ	将来の仕事（臨床）につながる第一歩です。頑張りましょう。 オフィスアワー：質問・相談などあれば、講義終了後あるいは佐々研究室、火曜日の16：00～17：00にきてください。					

病態学III		看護学科		1年後期			
2単位		必修		講義	30時間		
[教員]：佐々 敏・富田 顧旨・後藤 貴吉							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療について学ぶ。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。						
到達目標	知識・理解	主な精神科疾患の病態と診断・治療法について理解する。 主な眼科・耳鼻科疾患の病態と診断・治療法について理解する。 主な皮膚科疾患の病態と診断・治療法について理解する。			◎		
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切な説明をすることができる。			○		
	技能	図や表から病態に関連する内容の理解ができる。			△		
	関心・意欲・態度	独自のサブノート作成に取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	60	5	5	-	70	
	レポート	-	5	5	10	20	
	学習成果の自己評価	-	5	-	5	10	
	合 計(点)	60	15	10	15	100	
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『系統看護学講座 病態生理学』 医学書院						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1富田	精神疾患と治療の概念（精神医学とは、精神障害とは、精神衛生法について） [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
2富田	統合失調症の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
3富田	気分障害（躁うつ病）の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
4富田	神経症、睡眠障害の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
5富田	認知症の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
6富田	器質性精神障害、てんかんの病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
7富田	薬物依存、アルコール依存症の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
8後藤	主な眼科疾患の症状・検査と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
9後藤	白内障、緑内障の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
10後藤	主な耳鼻科疾患の症状・検査と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
11後藤	聴覚・平衡覚の障害と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
12後藤	皮膚の構造と機能、検査と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
13後藤	表在性皮膚疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
14後藤	熱傷、褥そう、膠原病の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
15佐々	1-14回のまとめ [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する（3h）						
時間外での学修	自分が理解しやすい、独自なサブノートの作成に努めてください。						
受講学生へのメッセージ	オフィスアワー：質問、相談などあれば講義終了後あるいは佐々研究室、火曜日の16：00～17：00にきてください。						

微生物学	看護学科		1年前期				
	1単位	必修	講義	15時間			
[教員]：佐々 敏							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	微生物学の基礎を学び、病原体の特徴と疾患および治療を理解し、免疫現象が疾患とどのように関わっているかを理解する。さらに、病原体から身を守る予防について学ぶ。						
授業方法	毎回のテーマにおける重要な微生物学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書や豆テストなどを用いる。自分の理解を高める目的で、独自のサブノートを作成する。						
到達目標	知識・理解	看護師に必要な微生物用語が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。			○		
	技能	図や表から微生物に関連する内容の理解ができる。			△		
	関心・意欲・態度	独自のサブノート作成に取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	60	5	5	-	70	
	レポート	-	5	5	10	20	
	学習成果の自己評価	-	5	-	5	10	
	合 計(点)	60	15	10	15	100	
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『系統看護学講座 微生物学』医学書院						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	微生物と微生物学、感染症の現状と対策 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
2	細菌の性質 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
3	真菌の性質、原虫の性質 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
4	ウイルスの性質 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
5	感染と感染症 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
6	感染に対する生体防御機構 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
7	感染源・感染経路からみた感染症、滅菌と消毒 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
8	感染症の検査と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)						
時間外での学修	自分が理解しやすい独自なサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは佐々研究室、火曜日の16:00~17:00にきてください。						

歯科衛生概論		看護学科	1年後期				
1単位		必修	講義 15時間				
[教員]：久本 たき子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	口腔は、生体の中でも多面的な機能を持った器官であり、生命的の維持に不可欠な摂食、摂食嚥下機能、会話、発音など優れた感覚器官である。また、口腔は他の体内器官と違い自分で直視でき、確認ができる特徴を持っている。将来看護師となる上で、口腔器官における歯科疾患と全身との関連性を理解する必要がある。人々の健康を維持し増進するために、歯科疾患の予防方法や口腔機能を学び、口腔の健康状態と全身の健康状態の関連性を学ぶことがねらいである。						
授業方法	講義・演習を中心に行い、5週目と最終週に口腔のケア技法の相互実習を行う。また、確認テストを毎回行う。						
到達目標	知識・理解	1. 歯や口腔の構造を理解し、口腔の機能を学ぶ。 2. 口腔内の疾病や予防方法を述べる。 3. 口腔のケアの目的と方法を述べる。			◎		
	思考・判断・表現	授業内容について、要点をまとめたレポート作成ができる。			△		
	関心・意欲・態度	自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。			○		
観点別評価	評価の観点 評価方法	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	筆記試験	80	-	-	-	80
	レポート作成	レポート作成	-	5	-	-	5
	受講態度	受講態度	-	-	-	15	15
	合 計(点)	合 計(点)	80	5	-	15	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した場合単位を与えません。						
テキスト	『口をまもる 生命をまもる 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版』(株) 学研メディカル秀潤社(2,592円) ISBN: 978-4-7809-1114-5						
参考書・教材	毎回、講義資料としてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション・歯と口腔の構造と機能 講義の概要について説明し、乳歯・永久歯の名称と歯周組織および口腔の構造について講義する。 また、歯科衛生学生より歯科保健指導を受け、自己の口腔衛生状況を確認する。 [準備・課題]自己の口腔衛生状況を把握する。 乳歯・永久歯の名称と歯周組織の構造について復習する。(3h)						
2	歯・口腔疾患に伴う障害の症状、顎・口腔機能障害と発生機序① 口臭・口腔乾燥症・摂食嚥下障害について講義する。 [準備・課題]口臭・口腔乾燥症について復習する。(3h)						
3	歯・口腔疾患に伴う障害の症状、顎・口腔機能障害と発生機序② 摂食嚥下機能について演習を行い、レポート作成をする。 [準備・課題]摂食嚥下機能の演習内容について復習する。(3h)						
4	う蝕の原因や予防法（フッ化物応用等）、および歯周病の原因や予防法について講義する。 [準備・課題]う蝕の原因や予防法および歯周病の原因・予防法を復習する。(4h)						
5	1～4回までの課題の確認を行う。 また、自己的ブッシング法を復習し、相互実習および義歯着脱実習（模型上）を行う。 [準備・課題]今回の実習内容を復習し、改善点を明確化する。(3h) (久本・飯岡)						
6	口腔ケアの目的と方法：口腔ケアの目的とその効果や加齢に伴う口腔症状と口腔ケアの方法を講義する。 [準備・課題]加齢に伴う口腔症状についてまとめる。(4h)						
7	5～6回目の課題の確認を行う。 口腔ケアの実際：口腔ケアの手順を説明し、口腔のケアを実施するための技法について相互実習を行う。 (久本・飯岡) [準備・課題]ベッドサイドにおける口腔のケア方法についてまとめる。(4h)						
8	義歯安定剤・義歯洗浄剤の使用方法と知覚過敏症のメカニズムについて解説する。(学外講師) また、授業内容についてレポート作成を行う。 [準備・課題]義歯安定剤・洗浄剤の使用方法と知覚過敏症のメカニズムについて復習する。(4h)						
時間外での学修	毎回の授業で重要な事は伝えますので、次週の確認テストの勉強をしっかりと行い歯科関連知識を確実にしましょう。						
受講学生へのメッセージ	歯科疾患と全身には深い関係があります。将来、在宅医療や看護業務を行ふにあたり、口腔のケアの重要性を理解するように努めてください。 オフィスアワーは、研究室（G304：6号館3F）、毎週火曜日の5時限です。						

薬理学	看護学科		1年後期			
	2単位	必修	講義	30時間		
[教員]：宇佐美 英績・木村 美智男						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	第1回、第2回は薬理学の総論を解説します。薬がどのように効いているのか、また副作用や相互作用などに気を付けることも併せて学んでいきます。第3回から第15回までは、各論として様々な疾患に対する薬を紹介し、作用の仕組みや使い分け、主な副作用を覚えていきましょう。また、薬の形態、使い方、使用上の注意、保管・管理、医療安全などについても実際の例をもとに考えていきましょう。					
授業方法	講義、演習をします。テキスト、パワーポイント、プリント、実物などを用いて説明します。					
到達目標	知識・理解	看護学生として薬物療法の重要性と安全の確保を認識でき、さらに、個々の薬剤に対して、その作用機序、相互作用、副作用などを知識として身に着け、疾患との関連付けが理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	チーム医療における他職種との連携・協働の必要性を理解し、医師や薬剤師と薬物療法において適切な議論ができる基礎知識を習得できる。			○	
	技能	実際の薬剤を見て、患者に投与することをイメージしながら、手技や技能を身に着け薬物療法の基本を習得できる。			○	
	関心・意欲・態度	薬物の有用性と危険性を認識でき、自ら副作用などを察知し、薬剤投与の是非を判断し、医師や薬剤師に報告できる基礎知識を習得できる。			○	
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験（選択）	30	20	20	20	90
	受講態度	4	2	2	2	10
	合 計(点)	34	22	22	22	100
評価の特記事項						
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学』医学書院					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	医薬品総論、分類（毒薬、劇薬、麻薬など）、名前、剤形、管理、開発、作用、薬物動態など [課題]学んだ内容の復習(4h)					
2	薬の有害作用（副作用）、相互作用、依存性、使用上の注意、添付文書、投与方法など [課題]学んだ内容の復習(4h)					
3	生活習慣病に使用する薬（1）高血圧、狭心症、心筋梗塞 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
4	生活習慣病に使用する薬（2）不整脈、心不全、脂質異常症 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
5	生活習慣病に使用する薬（3）糖尿病 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
6	がん・痛みに使用する薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
7	感染症に使用する薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
8	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（1） 抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー型認知症治療薬、脳血管障害の治療薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
9	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（2）向精神病薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
10	救命救急時に使用する薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
11	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
12	消化器系疾患に使用する薬 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
13	その他の症状に使用する薬（1） 代謝機能障害、内分泌障害、血液・造血器障害、腎機能障害、運動機能障害 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
14	その他の症状に使用する薬（2）皮膚障害、視覚障害、性・生殖機能障害、更年期障害、生殖腺機能障害 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
15	血管外漏出、ステロイド、重篤な薬物有害反応の自覚症状、正しく投与するために必要な投与量計算 [課題]学んだ内容の復習(4h)					
時間外での学修	授業で採り上げる薬は時間の関係で限られていますので、医薬品事典などで補いましょう。					
受講学生へのメッセージ	薬理学という授業ですが、実際は薬物治療学に近いです。どういう病気にどんな薬が使われているか、投与するときにどのような注意が必要かなどを解説していきます。薬は取っ付きにくく、難しいというイメージがあるかもしれません、分かりやすく話をしますので、興味をもってもらえることを望みます。必要な専門用語や重要な薬品名を覚えてください。オフィスアワーは、講義前後に教室にて。					

生化学	看護学科		1年前期			
	1単位	必修	講義	15時間		
[教員]：佐々 敏						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	人体を構成する基本物質(糖質・タンパク質・脂質・核酸・ビタミン類・ホルモン類・無機質など)について学ぶ。また、これらの物質が、生体内でどのように代謝(合成と分解)され、機能を果たしているかを学習し、代謝異常により生じる代謝性疾患の原因について理解する。					
授業方法	毎回のテーマにおける重要な生化学用語を説明し、それに関する内容を深めるために、小テストなどを用いる。自分の理解力を高める目的で、独自のサブノートを作成する。					
到達目標	知識・理解	看護師に必要な生化学的用語が理解できる。		◎		
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。		○		
	技能	図や表から生化学に関連する内容の理解ができる。		△		
	関心・意欲・態度	独自のサブノート作成に取り組むことができる。		○		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	5	5	-	70
	レポート	-	5	5	10	20
	学習成果の自己評価	-	5	-	5	10
	合 計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『系統看護学講座 生化学』医学書院					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	生化学を学ぶための基礎知識 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
2	代謝のあらまし [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
3	糖質代謝 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
4	脂質代謝 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
5	タンパク質代謝 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
6	核酸・ヌクレオチドの代謝 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
7	遺伝情報、先天性代謝異常症 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
8	生体内的物質代謝 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3 h)					
時間外での学修	自分が理解しやすい独自なサブノートを作成しましょう。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは佐々研究室、火曜日の16:00~17:00にきてください。					

公衆衛生学	看護学科		1年前期	
	1単位	必修	講義	15時間

[教員] : 長谷川 真子

[関連する資格・履修制限等] : 特になし

授業内容	公衆衛生は、保健・医療従事者にとって様々な活動の基盤となる。この科目では、公衆衛生活動に活かすための基礎的知識、具体的には公衆衛生の概念と仕組み、個の集合体としての集団における健康増進、疾病予防、健康課題のとらえ方、その対応について学修する。					
授業方法	講義中心で行うが、課題学習やグループワークを活用して授業を展開する。					
到達目標	知識・理解	公衆衛生の概念とその仕組み、集団における健康増進、疾病予防、健康課題について理解できる。				◎
	思考・判断・表現	公衆衛生における課題について考えることができる。				△
	関心・意欲・態度	公衆衛生について興味を持ち、自ら学びを深めようと取り組める。				○
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	70	-	-	-	70
	発表（グループワーク）	-	10	-	-	10
	課題提出	-	-	-	10	10
	受講態度（ミニレポート）	-	-	-	10	10
	合 計(点)	70	10	-	20	100
評価の特記事項	ミニレポートは毎回記入して提出する。欠席すればその分の点数が加点されないこととなる。技能点は、グループワークの取り組み姿勢で評価する。課題提出は2回あり、1課題5点満点で評価する。レポートや態度などの具体的な評価基準は授業で提示する。					
テキスト	『系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生』医学書院 『系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉』医学書院					
参考書・教材	授業で提示する。					

実施回	内容	
	授業内容・目標	
1	公衆衛生・予防活動の理念 ・健康の概念、ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチなど、公衆衛生活動の考え方を理解する。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
2	日本の公衆衛生の定義と歴史、仕組み ・日本における公衆衛生の定義と歴史的変遷、仕組みの特徴、公衆衛生活動機関の役割を理解する。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
3	公衆衛生の活動対象の理解 ・活動対象となる社会集団について学び、社会集団と個人の健康・QOLの関りを理解する。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
4	環境と健康 ・地球環境、放射線、食品、家庭用品、住環境などと健康との関連、保健活動について理解する。（グループワーク：取り組み姿勢を評価） [準備・課題] 環境と健康について調べる 課題提出のこと（評価対象）(2~3h)	
5	健康に関する指標 ・人口動態・静態、平均寿命・健康寿命、罹患率など、公衆衛生における健康指標の意義と動向について学修し、社会の動向と関連付けて考える。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
6	世界の公衆衛生の歴史と看護 ・世界の公衆衛生活動の歴史、国際的な保健活動を進める上で多国間協力の必要性と国際機関について学び、その活動の中での看護職の役割や活動の変遷について理解する。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
7	公衆衛生関連法規と関連機関の役割 ・地域保健、母子保健、障がい者施策、学校保健、労働衛生、環境保健などの関連法規の概要とそれらを担う関係機関の役割を理解する。 [課題] 学習したことの復習(3h)	
8	公衆衛生活動における課題の動向と対策、まとめ ・公衆衛生活動の概要と課題について理解する。 ・社会情勢を踏まえ、看護職に求められる役割や責任について考える。 [課題] 総合的なまとめを復習(3~5h)	
時間外での学修	初めて見聞きする用語が多く、範囲も広いでシラバスで確認して、毎回の授業範囲を予習しておいてください。また、授業内容は復習で理解を深めてください。（各3時間程度）	
受講学生へのメッセージ	毎回の授業の目標を理解して、その答えを時間内で理解できるように授業に参画してください。オフィスアワーは、授業日の12:20~13:00ですが、事前連絡してから訪問してください。場所は別途お知らせします。	

看護学概論	看護学科	1年前期							
	2単位	必修	講義 30時間						
[教員] : 馬場 貞子・松原 薫									
[関連する資格・履修制限等] : 特になし									
授業内容	看護学全般に共通する基本的な概念・理念、および看護実践そのものの仕組みや機能、看護者の倫理等について学びます。 また、看護職者の社会的使命や役割、保健医療システムと看護活動の実践を理解できるよう解説します。								
授業方法	講義およびグループワーク・フィールドワーク								
到達目標	知識・理解	看護とはなにか、看護の目的・対象・機能について理解する。 看護の対象を統合体として捉えるとともに、人権・生命の尊重を理解する。 看護の歴史的変遷を学び、看護とはなにかを理解することができる。 看護の役割と看護を取り巻く制度や体制を理解する。		◎					
	思考・判断・表現	看護とはなにか、看護の目的・対象・機能について考えることができ。 看護の観点より、人権・生命の尊重について、自己の考えを持つことができる。		○					
	関心・意欲・態度	課題調査やグループ学修において意欲的に参加し、他者との協調により自己の役割を果たす。		△					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	筆記試験	60	-	-	-	60			
	ミニレポート(毎回)	10	-	-	-	10			
	課題レポート(2回)	-	10	-	-	10			
	グループワーク	-	10	-	-	10			
	総合判断	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	70	20	-	10	100			
評価の特記事項									
テキスト	『系統的看護学講座 基礎看護学(1) : 看護学概論』 医学書院								
参考書・教材	フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書き』 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン『看護の基本になるもの 新装版』 日本看護協会出版会			他、適宜紹介					
内容									
実施回	授業内容・目標								
1 馬場	序：授業のガイダンス、 看護の主要な概念：看護の対象としての人間とは、看護とは、健康とは、環境と葉について学修する [準備・課題] 自分の考える、健康・看護について事前に整理をしておく (1h)								
2 馬場	看護の主要な概念：看護の対症としての人間を統合体としての理解 看護理念と看護理論：看護理論の概要 [準備・課題] 看護理論とはなにかについて事前に教科書の該当箇所を予習して望む。 (1h)								
3 松原	看護の変遷：今日の看護の基盤となる看護の歴史、近代看護への歩みとナイチンゲールの看護・功績 [準備・課題] 近代看護への歩みとナイチンゲールの看護・功績について整理する。 (1h)								
4 馬場	看護理念と看護理論：看護理論の分類、理論の基本的構成と主な看護理論家と看護モデル、指定された理論家の看護モデルについてグループワークで学修 [準備・課題] 指定された理論家についてグループで調べ話し合う (1h)								
5 馬場	看護理念と看護理論：看護の理論家と看護モデル、グループワークでの学びを整理し、課題をまとめる [準備・課題] 指定された理論家について、グループワークした内容の整理をし、課題をまとめる。 (1h)								
6 馬場	看護理念と看護理論：看護の理論家と看護モデルについてのグループ学修の発表により共有（発表） [準備・課題] グループ発表と資料、講義内容を参考に学びを整理する。 (1h)								
7 馬場	看護者の自立と看護倫理： 看護における倫理と価値について学ぶ (国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領) [準備・課題] 看護倫理綱領の教科書の該当箇所を予習して望む。 (1h)								
8 馬場	看護者の自立と看護倫理：国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領を基に看護師・看護学生としての行動・責務 [準備・課題] 倫理綱領と看護師・看護学生として行動に関連付けて整理する。 課題レポートの提出 (2h)								
9 松原	看護関係法規と看護者の責任：保健師助産師看護師法、医療法等 [準備・課題] 看護実践に関する基本法規についてまとめる。 (1h)								
10 松原	看護職の養成制度とキャリア開発：看護師への教育と看護師の継続教育、専門看護師、認定看護師等 [準備・課題] 看護師への教育と看護師の継続教育、これから看護師像についてイメージする。 講義を振り返り、課題を整理しまとめる。 (1h)								
11 松原	看護の活動領域：各種看護活動の場とその特性、期待される看護の役割 [準備・課題] 医療施設、福祉施設、地域における各施設の特殊性を整理しまとめる。 配布資料・講義内容を振り返り、課題を整理する。 (1h)								
12 松原	看護管理：看護管理とは、看護職者の業務責務 [準備・課題] 看護者の行う看護管理とはなにかを理解し、それに伴う看護職者の業務責任について理解する。 病院見学に備えて病院医療を支える専門職の活動について課題シートに基づき整理しまとめる。 (1h)								
13 馬場	看護提供の仕組み：医療の実践の場である病院において関係者からの講義、見学により、医療環境・安全管理・チーム医療の理解 (病院見学)								
14 馬場	看護提供の仕組み： 医療の実践の場である病院において関係者からの講義、見学により、チーム医療・看護の役割と看護活動の理解 (病院見学) [準備・課題] 病院見学での学びを整理しまとめる。 (2h)								
15 馬場	総括と看護の展望： 看護学に共通する概念や法則について具体的な看護活動の場面である。ビデオ教材により理解 看護学概論のまとめ・看護の展望 [準備・課題] 講義内容を振り返り、課題を整理しまとめる。 (1h)								
時間外での学修	看護に関する図書（看護理論集など）を熟読し、自分なりの看護を表現できるように努力してください。								

受講学生への
メッセージ

予習・復習をして授業に参加してください。自分の考えや疑問は後に残さず積極的に発言したり質問したりしてください。参加型で楽しい授業にしましょう。
毎回授業ごとに「交流カード」により理解度や質問事項を記載し提出を求めます。
オフィスアワーを活用してください(日程は別途お知らせします)。

基礎看護技術論		看護学科		1年前期					
2単位		必修		講義					
[教員]：馬場 貞子・服部 直子・松原 薫									
[関連する資格・履修制限等]：特になし									
授業内容	看護を展開する上で基盤となる共通の基礎看護技術として感染予防の技術、コミュニケーション技術、思考プロセスとして看護過程について学修する。								
授業方法	テキストおよび配布資料を活用して講義を行、グループワークや演習を行う。								
到達目標	知識・理解	・感染防止の根拠と方法について理解する。 ・看護における援助的人間関係形成の方法としてのコミュニケーション技法について理解する。 ・看護過程と看護診断の意義について理解する。			◎				
	思考・判断・表現	対象や場面に応じたコミュニケーション実践における自己の課題を述べ事ができる。			○				
	関心・意欲・態度	看護を学ぶ者としてのルール・規範を守り、主体的に学修することができる。			△				
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)		
	筆記試験	60	-	-	-	-	60		
	ミニレポート（毎回）	10	-	-	-	-	10		
	課題レポート（2回）	-	10	-	-	-	10		
	グループワーク	-	10	-	-	-	10		
	総合判断	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	70	20	-	10	100			
評価の特記事項									
テキスト	『系統看護学講座 基礎看護技術 I : 基礎看護学②』医学書院								
参考書・教材	竹尾恵子監修 『看護技術プラクティス第3版』学研 系統看護学講座 『人間関係論』医学書院								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1 松原	序：授業のガイダンス、 感染防止（講義）：感染および感染防止の基礎的知識 [準備・課題] 感染の発生および予防についてまとめる。 (1 h)								
2 松原	感染防止（講義）：感染予防のプロセス（標準予防策） [準備・課題] 標準予防策についてまとめる。 (1 h)								
3 松原	感染予防（演習）：手指衛生・滅菌手袋の装着 [準備・課題] 手指衛生・滅菌手袋の装着について繰り返し練習する。 (1 h)								
4 松原	感染予防（演習）：滅菌物の取り扱い・ガウンテクニック [準備・課題] 滅菌物の取り扱いについて練習する。 (1 h)								
5 馬場	援助的人間関係形成の方法としてのコミュニケーション技法の基礎（講義）：コミュニケーションの意義と目的・構造 [準備・課題] コミュニケーションの基本についてまとめる。 (1 h)								
6 馬場	援助的人間関係形成に不可欠な要件（講義）：自己理解、アサーティブコミュニケーション [準備・課題] レポート課題 「コミュニケーションにおける自己の課題（看護師を目指す自分として）」 (2 h)								
7 馬場	コミュニケーションのプロセスに影響する要因（講義）：文化とコミュニケーション、人間関係と空間 [準備・課題] 講義を振り返り、課題を整理まとめる。 (1 h)								
8 馬場	看護におけるコミュニケーション（講義）： 看護専門職としての対応能力、看護におけるアーリング、患者・看護師間のコミュニケーション [準備・課題] 身近の年代の違う方へのインタビューの実施。 (1 h)								
9 馬場	看護におけるコミュニケーション（講義）： 医師・看護師間のコミュニケーション、看護師間のコミュニケーション、コミュニケーションを促進する技法、アーサーショントレーニング [準備・課題] 次の演習に活用できるよう、講義を振り返り、課題を整理する。 (1 h)								
10 馬場	援助的人間関係形成の方法としてのコミュニケーション技法（課題に対して演習）： 自己の価値観の明確化、パーソナルスペースを考慮したコミュニケーション、アサーション・トレーニング等 [準備・課題] 演習を振り返り自己の課題の整理をする。 (1 h)								
11 馬場	模擬患者とのコミュニケーション（講義・演習）： 目的、方法の説明、インタビュー・トレーニング、インタビュー・ガイドの作成 [準備・課題] 模擬患者インタビュガイドの作成 (1 h)								
12 馬場	模擬患者とのコミュニケーション（演習）：インタビュー・トレーニング [準備・課題] 模擬患者とのコミュニケーションを振り返り、課題を明確にする。 (1 h)								
13 馬場	模擬患者とのコミュニケーション（演習）：インタビュー・トレーニングと振り返り [準備・課題] 模擬患者とのコミュニケーションを振り返り、課題を明確にする。 (1 h)								
14 馬場	援助的人間関係形成の方法としてのコミュニケーション技術のまとめ [準備・課題] 援助的人間関係形成におけるコミュニケーションについて、まとめ。 (1 h)								
15 服部	看護過程・看護診断：看護過程と、看護診断とは [準備・課題] 看護過程と看護診断について整理する。								
時間外での学修	講義の前には必ずテキストの該当部分を読んでおいて下さい。また、復習をして理解を深め、普段の生活の中でのコミュニケーションで自己の課題と向き合ってください。								
受講学生へのメッセージ	看護の基礎技術を学修する項目であり、主体的に積極的に学修を進めてください。 オフィスアワーを活用してください。(日程は別途お知らせします)								

生活支援技術論	看護学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	60時間
[教員]：古田 桂子・野綱 淳子・栄原 美和・服部 直子				
[関連する資格・履修制限等]：特になし				

授業内容	人間の健康生活を保持増進し、疾病の予防と回復に向けた日常生活行動への援助を実践するための基礎的知識、技術を修得することを目標とする。環境の調整、清潔や排泄の介助等について、科学的根拠に基づき、かつ対象の人権尊重と安全・安楽に配慮しながら実践できるようになることを目指します。		
授業方法	講義と演習を組み合わせて行います。演習では学生同士で患者役を体験し、個人及びグループでの主体的な学習を通して、技術の習得を目指します。		
到達目標	知識・理解	根拠に基づいた看護技術の必要性を理解し、日常生活援助技術の基本を習得する。	◎
	思考・判断・表現	対象の状態に合わせた必要な援助を選択し、その根拠について説明できる。	△
	技能	安全・安楽に配慮して、根拠に基づいた援助技術が実施できる。	○
	関心・意欲・態度	看護技術の習得に関心を持ち、主体的に学習することができる。	△

評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	60	10	-	-	70	
実技試験	-	-	20	-	20	
課題提出	-	-	-	10	10	
合 計(点)	60	10	20	10	100	

評価の特記事項	<課題提出の評価基準> 1 課題につき 2 点配点。 0 点：未提出 1 点：求められていることが記されているが内容が浅い。 2 点：自身の思い・考えまたは文献等を活用して具体的にまとめられている。					
	<実技試験の評価基準> 実技試験は 2 回にわたって実施する。採点は、授業で提示した評価基準をもとに行う。					
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術 II』医学書院					
参考書・教材						

実施回	授業内容・目標					
	1 古田	2 野綱	3 野綱	4 野綱	5 野綱	6 野綱
1 古田	看護技術とは 看護師に求められる生活支援技術とは (講義) [課題] 医療・看護における専門用語について学習する。(2 h)					
2 野綱	療養環境とその調整 看護技術と安全管理 (講義)					
3 野綱	ボディメカニクスの原則 (講義)					
4 野綱	ボディメカニクス (演習) 実習室オリエンテーション					
5 野綱	ベッドメーキング (演習)					
6 野綱	ベッドメーキング (演習) [課題] 短時間でベッドメーキングができるよう練習する。(3~5 h)					
7 古田	活動・運動のメカニズムと意義 (講義)					
8 古田	睡眠・休息の援助 (講義)					
9 古田	体位 体位変換の目的と留意点 (講義) [課題] 体位の種類と特徴および用いられる場面について調べる。(1~2 h) *要提出：評価対象 1					
10 古田	体位変換 ポジショニング (演習) [課題] ボディメカニクスを考慮して、基本的な体位変換を安全安楽に実施できるようになるまで繰り返し練習する。(1~2 h)					
11 野綱	麻痺のある患者の車椅子・ストレッチャーへの移乗と移送 (演習)					
12 野綱	麻痺のある患者の車椅子・ストレッチャーへの移乗と移送 (演習) [課題] 一人で、ベッド上での起き上がり～車椅子への移乗ができるようになるまで練習する。(2 h)					
13 服部	栄養に関する基礎知識 食事・栄養状態のアセスメント (講義)					
14 服部	食欲への援助 摂食動作の援助 口腔ケア (講義) [課題] ・食事バランスガイドを記入し、自身の食生活について評価する。 ・食事介助の手順書を作成する。(2~3 h) *要提出：評価対象 2					
15 服部	食事動作に障害のある方への援助 (演習)					
16 服部	食事動作に障害のある方への援助 (演習)					
17 栄原	清潔・衣生活に関する基礎知識 (講義) [準備・課題] 清拭に関する課題レポートを作成して授業に臨む。(1 h) *要提出：評価対象 3					
18 栄原	清潔の援助のアセスメント (講義)					
19 栄原	全身清拭・寝衣交換の方法 (講義) 事例を通して、臥床患者の清拭で留意すべきことを考える(グループワーク) [課題] 臥床患者の全身清拭の手順とその根拠、実施上の留意点をまとめる。(2 h) *演習時に活用					
20 栄原	臥床患者の全身清拭と寝衣交換 (演習)					
21 栄原	臥床患者の全身清拭と寝衣交換 (演習) [課題] 臥床している人の寝衣交換がスムーズにできるようになるまで練習する。(3~5 h)					
22 古田	洗髪の意義 足浴の意義 (講義) 臥床患者の足浴方法を考える(グループワーク)					
23 古田	臥床患者の洗髪・足浴の方法 (演習)					
24 古田	臥床患者の洗髪・足浴の方法 (演習) [課題] 演習を実施して、臥床患者の洗髪と足浴の方法について学んだことを整理する。(1 h) *要提出：評価対象 4					
25 古田	排泄に関する基礎知識 排泄 (講義) [準備] 紙おむつ着用体験についてレポートする。(1~2 h) *要提出：評価対象 5					
26 古田	床上排泄の援助：尿器・便器・オムツの使い方、排泄動作の援助 (講義・演習)					

		内容
実施回		授業内容・目標
27	古田	排泄ケアをうける患者の思い・オムツでの排泄を余儀なくされる患者の思いと看護について (グループワーク)
28	古田	床上排泄の援助：臥床患者のオムツ・便器を使用した陰部洗浄（演習）
29	古田	床上排泄の援助：臥床患者のオムツ・便器を使用した陰部洗浄（演習） 【課題】臥床患者の陰部洗浄・オムツ交換について一人でできるまで繰り返し練習する。（2～3 h）
30	古田	臥床患者のリネン交換（演習） 【課題】今まで学んだことを活用して、スムーズに臥床患者のリネン交換ができるようになるまで繰り返し練習する。（2 h）
	時間外での学修	提示した課題については必ず実施し、復習に力を入れてください。また演習前には必ずその単元に関する講義内容を確認して授業に臨んでください。実技は各自が、目標に達するまで空き時間を利用してセルフトレーニング室を活用して練習してください。
	受講学生へのメッセージ	基本的な技術の習得は、看護学生には必須なことです。自分が目標とする看護師像をめざして、主体的・積極的に学習を進めてください。演習を欠席すると技術習得ができませんので、できるだけ休まないようしてください。オフィスアワーは講義日の16:20～17:20です。

治療支援技術論	看護学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	60時間

[教員]：服部 直子・馬場 貞子・古田 桂子・松原 薫・野網 淳子・栗原 美和

[関連する資格・履修制限等]：特になし

授業内容	疾病的予防と回復に向けて実施される治療支援の技術について、基本的知識と手技を習得することを目標とします。バイタルサインの測定、体温や呼吸を整える技術、与薬や経管栄養法等について、科学的根拠に基づき、かつ対象の人権尊重と安全・安楽に配慮しながら実践できるようになることを目指します。			
授業方法	講義と演習を組み合わせて行います。演習は2クラスに分かれて実施しますが、学生同士で患者役を体験し、個人及びグループでの主体的学習を通して技術の習得を目指します。			
到達目標	知識・理解	各援助技術の目的および基本手技とその根拠について説明できる。		
	思考・判断・表現	対象の状態に合わせて援助方法を選択するとともにその根拠について説明できる。		
	技能	安全・安楽に配慮した援助技術を実践できる。		
	関心・意欲・態度	看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。		

評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
						70
筆記試験	筆記試験	50	20	-	-	70
実技試験	実技試験	-	-	20	-	20
レポート提出状況・受講態度	レポート提出状況・受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	50	20	20	10	100

評価の特記事項	
テキスト	『系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2] 基礎看護技術I』医学書院 『系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[3] 基礎看護技術II』医学書院
参考書・教材	竹尾恵子 監修『看護技術プラクティス 第3版』学研, 2015. 他

実施回	授業内容・目標
1 回	バイタルサイン:バイタルサインの意義と測定方法（体温、脈拍）（講義、服部） 【課題】自分の体温・脈拍を1週間測定しグラフに記載する。（1h）
2 回	バイタルサイン：バイタルサインの測定方法（呼吸、血圧）（講義、服部） 【課題】バイタルサインの意義と基準値・異常値についてまとめる。（2h）
3・4回	バイタルサインの測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）（演習） 【課題】バイタルサインを30人以上測定する。（6h）
5回	体温を整える技術：温罨法・冷罨法、包帯法（講義、松原）
6回	罨法、包帯法（演習） 【課題】罨法、包帯法について繰り返し練習する。（2h）
7回	呼吸を整える技術：酸素療法、吸引（講義、馬場） 【課題】酸素療法・吸引の留意点、酸素ボンベの残圧計算について復習する。（1h）
8・9回	酸素療法、吸引（演習）
10回	与薬① 与薬に関する基礎知識（講義、古田） ：経口与薬法、口腔内与薬（講義、古田）
11回	：経直腸与薬、経皮与薬、点眼・点鼻与薬（講義、古田） 【課題】様々な与薬法の特徴についてまとめる。（2h）
12回	与薬② 筋肉内注射、皮下注射、皮内注射（講義、栗原） ：静脈内注射、点滴静脈内注射、採血、医療安全（講義、栗原） 【課題】注射の部位・実施のポイントについてまとめる。（2h）
13回	検査の看護：検体検査、腹腔穿刺、腰椎穿刺（講義、馬場） ：消化管造影検査、胃内視鏡検査（講義、馬場） 【課題】各検査の看護のポイントをまとめる。（2h）
14回	17・18回 皮下注射、筋肉内注射（演習） 【準備・課題】注射の手技について練習する。（2h）
19・20回	19・20回 静脈内注射、採血、点滴の管理（演習） 【準備・課題】注射の手技について練習する。（2h）
21回	21回 栄養摂取の治療的援助：経管栄養法（講義、野網） 【課題】経管栄養法の留意点についてまとめる。（1h）
22回	22回 経管栄養法（演習）
23回	23回 排泄の治療的援助：浣腸・摘便（講義、野網） ：導尿（講義、野網） 【課題】浣腸、摘便、導尿の手技と留意点についてまとめる。（1h）
24回	25・26回 浣腸、摘便、導尿（演習） 【課題】導尿を繰り返し練習する。（2h）
27・28回	27・28回 総合演習①：片麻痺のある患者の清潔・排泄の援助計画立案（演習；グループワーク） 【課題】患者の条件に応じた援助の計画を立案する。（2h）
29回	29回 総合演習②：片麻痺のある患者の清潔・排泄の援助実践（演習） 【課題】援助を振り返り計画を修正する。（2h）
30回	30回 総合演習③：実技試験に向けた演習

時間外での学修	講義の前には必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。演習前には必ず講義内容の復習をしてください。 演習後には空き時間を利用してセルフトレーニング室で、できるようになるまで繰り返し練習してください。
受講学生へのメッセージ	看護の基本技術を学修する科目であり、主体的・積極的に学習を進めてください。また、やむをえない場合を除いて欠席しないでください。 オフィスアワー：毎週月曜日講義終了後 319（服部）研究室

フィジカルアセスメント演習		看護学科		1年後期					
1単位		必修		演習					
[教員]：野綱 淳子・栗原 美和									
[関連する資格・履修制限等]：特になし									
授業内容	看護の対象である人の身体機能をアセスメントするために必要な知識と技術を習得する。								
授業方法	講義と演習を組み合わせて進めます。演習では、学生同士で看護師・患者役を交替しながら実際に身体診察を行います。DVD等の視聴覚教材やフィジカルアセスメントモデル（シミュレーター）を活用して正常と異常の理解を深めます。								
到達目標	知識・理解	フィジカルアセスメントの意義と方法を説明できる				◎			
	思考・判断・表現	系統的フィジカルアセスメントに必要な解剖生理学的知識および手技について説明できる。 診察結果について正常と異常の判断ができる。				◎			
	技能	健康な成人に対して、その機能を系統的に診察できる。				△			
	関心・意欲・態度	主体的に学習することができる。				△			
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	筆記試験	30	40	-	-	70			
	小テスト	-	10	10	-	20			
	課題レポート・受講態度	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	30	50	10	10	100			
評価の特記事項									
テキスト	『系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I』医学書院								
参考書・教材	山内豊明『フィジカルアセスメント ガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版』医学書院, 2011								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	(講義) コースガイダンス、フィジカルアセスメントとは、症状のアセスメント [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)								
2	(講義) フィジカルアセスメントの基本手技 [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)								
3	(講義) 呼吸系：肋間の同定、肺の位置、横隔膜の同定、視診・触診・呼吸音の聴診 [準備・課題] 事前課題(1h)								
4	(演習) 肋間の同定、横隔膜の同定 (打診) 胸部の視診、触診、呼吸音の聴診 [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)								
5	(講義) 循環系：血管の視診・触診、心音、心電図 消化系：口腔内の視診、腹部の視診・聴診・打診・触診 [準備・課題] 事前課題(1h)								
6	(講義) 運動系：歩行、関節可動域、徒手筋力測定 神経系：意識状態、瞳孔および対光反射、小脳機能評価 感覚系：眼球運動および視野、聴力、皮膚知覚 [準備・課題] 事前課題(1h)								
7	(演習) 循環系：血管の視診・触診、心音の聴診 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
8	(演習) 循環系：心電図モニター、標準12誘導心電図測定 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
9	(演習) 消化系：口腔内の視診 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
10	(演習) 消化系：腹部の視診・聴診・(腹水の) 打診・触診 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する。(1h)								
11	(演習) 運動系：歩行、徒手筋力測定 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
12	(演習) 運動系：関節可動域測定 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
13	(演習) 神経系：瞳孔および対光反射、小脳機能評価 感覚系：視野・外眼球運動 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
14	(演習) 感覚系：聴力、皮膚知覚 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)								
15	(講義)まとめ [準備・課題] 学習した内容について復習する(1h)								
時間外での学修	講義には解剖生理学、病理学、病態学などの既習科目の内容を踏まえて受講する必要があります。事前課題学習を通してよく復習して講義に臨みましょう。 演習前には資料等をよく読み、内容を把握した上で出席してください。また、演習時間だけでは技術習得が困難なため、セルフトレーニング室を大いに利用し、できるようになるまで練習しましょう。								
受講学生へのメッセージ	自分自身を含めて人の身体のしくみや働きについて興味・関心を持って学習しましょう。 オフィスアワー：特に定めませんが、事前に連絡して訪問してください。								

生活援助実習	看護学科		1年後期	
	1単位	必修	実習	45時間

[教員]：野綱 淳子・服部 直子・馬場 貞子・古田 桂子・松原 薫・葉原 美和

[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り

授業内容	医療施設の構造・機能を理解し、入院している患者の療養環境について学びます。また1年次に学修した知識と技術を基に、受け持ち患者の身体的・心理社会的側面を観察しながら、日常生活の援助を看護師とともに実施します。そして実施した援助の根拠、および効果を考察し、対象の状態に合わせた援助方法について学びます。						
授業方法	学外の医療施設で実習します。						
到達目標	知識・理解	対象を取り巻く療養環境について説明できる。 患者の身体的・心理社会的側面について説明できる。					<input type="radio"/>
	思考・判断・表現	対象に必要な日常生活援助の計画を指導のもと立案できる。 実践した援助の妥当性について振り返ることができる。 実習を振り返り、対象のニーズに合せた援助のあり方について考えを述べることができる。					<input type="radio"/>
	技能	対象および実習関係者と適切なコミュニケーションをとることができる。 対象に必要な日常生活援助を看護師とともに実践できる。					<input checked="" type="radio"/>
	関心・意欲・態度	指示された時間や方法を厳守し、記録物などの個人情報を適切に取り扱うことができる。 実習に対して主体的・積極的に取り組むことができる。 看護を学ぶ者として適切な態度で行動できる。					<input type="radio"/>
評価の特記事項	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	記録物	20	25	-	-	45	
	実践	-	-	30	-	30	
	実習態度	-	-	-	25	25	
	合 計(点)	20	25	30	25	100	
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』医学書院						
参考書・教材	必要時提示します。						

実施回	授業内容・目標				
	内容				
1.	実習時間・期間 1年次後期 1週間				
2.	内容 実習初日：各実習病院で病院の概要および看護部の役割について説明を受け、病院施設設備の見学を行う。 2～4日目：1人の患者を受け持ち、臨地実習指導者や教員の指導のもとに実習する。 最終日：自己評価をもとに実習の到達度を確認し、臨地実習指導者・教員から助言・指導をもらい、学びを深める。				
3.	課題 実習前に提示される課題に取り組む。毎日、実習を振り返り、実習中にわからなかった内容(検査、治療、薬剤)は、その日のうちに調べて翌日の実習の準備をする。 (各2～4時間) 詳細は実習オリエンテーションにおいて説明する。				

時間外での学修	実習は看護の実際を学ぶ貴重な学習です。既習科目の知識の確認に加え、看護技術の練習を十分に行って実習に臨みましょう。 事前オリエンテーションを受け、看護学生としての責任を自覚し、積極的に学習を進めましょう。
受講学生へのメッセージ	対象やその場に応じた挨拶や言葉遣い、実習に相応しい態度や身だしなみ、自己の健康管理に注意して取り組みましょう。 実習中は、臨地実習指導者や教員のアドバイスを参考に翌日の実習に繋げるようにならう。 オフィスアワー：特に定めませんが、事前に連絡をして訪問してください。

成人看護学概論		看護学科		1年後期					
2単位		必修		講義					
[教員] : 棚橋 千弥子									
[関連する資格・履修制限等] : 特になし									
授業内容	人間の成長発達課題における成人期の特質を身体的・心理的・社会的側面から理解する。また、成人期にある人々の健康破綻の原因や誘因を理解することにより、健康保持のために看護師としてのかかわり方を学ぶとともに、健康破綻の各段階における対象者に対する看護を全体的に捉えていきます。さらに、成人看護として看護過程を展開するにあたり必要であろう中範囲理論についても学びます。								
授業方法	講義中心として、一部グループ討議・発表をとりながら展開していきます。 一方的な講義を避け、学生との対話の中で考える力を養いたいと考えています。								
到達目標	知識・理解	成人期にある人々の発達課題を説明でき、健康破綻の原因・誘因を説明できる				◎			
	思考・判断・表現	健康破綻を来す可能性および健康破綻をきたした対象者の援助の概要を述べることができる				△			
	関心・意欲・態度	もっとも広範囲である成人期に関心を持ち、自己の課題として捉えることができ、積極的に学修する姿勢を貫くことができる				○			
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	筆記試験	70	-	-	-	70			
	グループ討議・発表	-	10	-	10	20			
	受講態度	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	70	10	-	20	100			
評価の特記事項									
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論』医学書院								
参考書・教材	必要な資料は、適宜配布します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業ガイダンス。 成人看護学の対象となる範囲を理解する。 [準備]成人の定義についてまとめておくこと。(1h)								
2	成人各期の成長発達を理解する。 成人の家族・社会における役割を理解する。 [準備]成人期の発達課題について学習しておくこと。(1h)								
3	成人の日常生活の共通性について理解する。 成人の生活スタイルの多様性を理解する。 [課題]テーマについて復習し、理解を深めておくこと(1h)								
4	学習者としての成人の特徴を理解する。 エンパワメント・アプローチのプロセスについて理解する。 [準備]テーマについて一読しておくこと。(1h)								
5	生活習慣病と健康障害の関連の理解 [準備]生活習慣病とされる疾患を理解しておくこと(0.5h)								
6	成人各期の健康問題を理解する(青年期・壮年期) [課題]テーマについて復習し理解を深めておくこと。(1h)								
7	成人各期の健康問題を理解する(更年期・高齢期) 死の受容過程について理解する [課題]成人各期における死の受け止め方についてまとめておくこと。(1h)								
8	急激な健康破綻を生じた対象者の看護の概要を理解する。 [準備]急性期とはどのような状況であるかを学習しておく。(1h)								
9	慢性的な揺らぎのある対象者への看護の概要を理解する。 [準備]慢性期とはどのような状況であるかを学習しておく。(1h)								
10	障がいがある対象者の生活とリハビリテーション [準備]障がいがあることによって、起こり得る状況についてまとめておくこと。(1h)								
11	終末期医療の概念 終末期にある対象者の理解 終末期看護の機能・役割 [課題]学習内容を復習し理解を深めておくこと。(1h)								
12	中範囲理論についてグループ学修をする。 (セルフケア不足理論、協働的パートナーシップ理論、ヒューマンケアリング理論、自己効力感など) (準備)「中範囲理論とは」について学修しておくこと。(2h)								
13	中範囲理論についてグループ学修をする。 (セルフケア不足理論、協働的パートナーシップ理論、ヒューマンケアリング理論、自己効力感など) (課題)自己の所属するグループテーマについて、理解を深めておくこと(2h)								
14	グループ発表会 (課題)自己の所属するテーマ以外の理論について、復習をし理解を深めておくこと(2h)								
15	まとめ 成人看護学概論において、重要事項について再確認を実施 (準備)復習を行い、不明な点について質問できるように準備しておくこと。(1h)								
時間外での学修	1コマ終了後には必ず復習をしておいて下さい。その際不明な点・理解困難な点についてはオフィスアワー等を利用して、問題解決するよう努めてください。								
受講学生へのメッセージ	本講義の学修には、「病態学」「看護学概論」等の理解が前提となります。学生はこれらの講義について、積極的に復習しておいて下さい。 オフィスアワー：別途お知らせします。								